

群馬県前橋市
村 前 遺 跡

店舗建設に伴う発掘調査報告書

1 9 8 7

前 橋 市 教 育 委 員 会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は北に赤城山、西に榛名山を望見する、関東平野の北部を市域とした、県都である。奥利根に源を発した利根川が、市域を貫流し、その支流は市域全域を潤し、「水の都」であるとともに「糸の町」として、古くから養蚕製糸で栄えてきた市である。

北関東一の人口28万を擁する本市は、生涯学習都市を目指し、教育、文化、商工業の調和あるすばらしい町づくりに取り組んでおり、中心市街地の再開発事業、区画整理事業、また民間では住宅地の開発行為など生活環境の整備が進められている。この村前遺跡の発掘調査は、民間企業が農地に店舗を建設するため、都市計画法に規定する開発行為の申請を受けて、市教育委員会で関係者と協議調整を計り、発掘調査を実施することになったものである。調査によって、古代水田址と畝状遺構が検出された。この地は上野国府推定地の南に広がる前橋台地の水田址で、条里制の地割等に係わる資料と思慮されるものであります。

本調査を実施するに当たり、株式会社「しまむら」のご理解と協力で、記録保存を行うことが出来ましたことに厚く御礼申し上げます。嚴寒の中発掘調査にあたられた皆さんに心から感謝申し上げます。

本報告書がこの地域の歴史解明の資料として、少しでも利用される所があれば幸甚で有ります。

昭和62年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 関口和雄

例　　言

1. 本報告書は、都市計画法第29条(開発行為の許可)の規定に基づく“住宅地造成事業。しまむら代表取締役鷲村恒俊の店舗建設に先がけた村前遺跡として、昭和60年度発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、前橋市教育委員会のもとに組織された、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(团长奈良三郎)の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(前橋市青柳町211-1代表取締役須永眞弘)が実施した。
3. 遺　　跡　名　　村前遺跡 61A-12
4. 調　　査　場　所　　前橋市箱田町字村前1471-2
5. 調　　査　面　積　　1170m²
6. 調　　査　期　間　　昭和60年1月9日～昭和61年2月28日
7. 調　　査　担　当　者　　福田紀男(市文化財保護係長)　　浜田博一(市文化財保護係主任)
金子正人(スナガ環境測設株式会社専務取締役)
8. 本書はスナガ環境測設㈱埋蔵文化財調査部が作成にあたり、執筆及び編集の総括を金子正人が担当し荻野博巳が図版作成に従事した。測量作業の指導は須永眞弘(測量士第52614号)が行った。
9. 本調査における資料は、一括して前橋市教育委員会が保管している。
10. 調査にご協力戴いた方々に記して感謝致します。
株式会社「しまむら」代表取締役 鷲村恒俊氏
株式会社桑建設事務所代表取締役 堀川勝英氏
11. 本調査に参加した方々は下記の通りでした。ありがとうございました。(敬称略)

今井芳生	船藤亨	柴崎信江	佐々木智恵子	角田朱美
松岡和香江	新井健造	新井恒喜	須田シゲル	田村昭子
田村光子	平出トミ子	石坂君子	石原せつ子	梅澤久恵
大津満理子	菊池スエ	小林サワ		

目 次

序	
例 言	
第1章 発掘調査の経過	1
第2章 遺跡の立地と環境	3
第3章 調査の方法	7
第4章 基本土層	7
第5章 検出遺構	8
①溝状遺構	
②井戸状遺構	
③水田址の形状及び規模	
④欹状遺構について	
第6章 ま と め	11

図版目次

国版1	
①空中撮影による全景	
②隣地の境界と畔畦の関連	
③調査前水田風景	
④東壁セクション	
⑤中央溝状遺構L-L'セクション	
国版2	
⑥遺跡の北西隅からみた欹状遺構	
⑦遺跡の南西隅からみた欹状遺構	
⑧S J-4 畦畔	
⑨S J-1・3・5と水路状遺構	
⑩2ライン付近の畦畔を思わせる遺構	
⑪S J-4 水口遺構	
⑫井所跡	

挿図目次

第1図 周辺遺跡の位置図	2
第2図 土層断面図	4
第3図 西壁土層断面図	7
第4図 北壁土層断面図	9
第5図 東壁上層断面図	
中央溝状遺構土層断面図	11
第6図 エイベイション図	13
欹状遺構エレベイション計測表	10
最近5年間の畑・畠跡発掘調査例	
	12

第1章 発掘調査の経過（日誌より）

- 昭和16年 横浜建築事務所より前橋市箱田町字村前1471—2番地において3140.25m²に店舗新設計画事前協議書提出される。
協議の結果試掘調査を実施することになる。
11. 2 埋蔵文化財確認調査についての依頼書提出される。
12. 3 試掘調査実施する。その結果、古墳時代から平安時代の遺跡地である可能性が極めて高いことが判明した。
埋蔵文化財の試掘調査について回答する。
62. 1. 8 村前遺跡埋蔵文化財発掘調査委託契約書締結。
- 9 ブレハブ、発掘作業用機器搬入、安全対策用杭打ち、気球用の小屋仮設。
- 10 調査地境界立会い、水道設置、北西部より重機にて表土掘削開始、排土運搬。
- 13 北西壁面上土層線引き、電気・電話の設置。
- 14 中央から西に畝状遺構が検出される。土層断面実測開始。
- 17 市立東小3年生2クラス見学。B軽石層を掘り下げ水田跡の精査開始。
- 18 基準点・水準点測量。
- 20 北壁・東壁の土層断面図作成。
- 22 グリット杭打ち、中央深掘り部分のセクション実測。
- 23 (1:20) 平面実測図作成作業開始、セクション写真撮影。
- 25 市立東小3年生1クラス見学。
- 28 レベリング開始。
- 29 写真撮影。
2. 1 井戸状遺構半裁写真撮影。
- 4 中央部から西の畝状遺構に石灰をいれる。
- 5 強風のため途中で作業終了。
- 15 雨のため作業中止。
- 26 遺跡全面清掃。
- 27 気球による空中写真撮影。
- 28 写真撮影（タワーから発掘現場全体を写す）
3. 1 調査終了、ブレハブ家屋解体。
- 4 滝川流域地形踏査
- 5 発掘作業機器搬出終了。



1	総社二子山古墳	6	上野国分寺跡	11	寺田遺跡	16	前箱田遺跡
2	宝塔山古墳	7	上野国分尼寺跡	12	元總社明神遺跡	17	生川遺跡
3	蛇穴山古墳	8	閑泉樋遺跡	13	中尾遺跡	18	天川二子山古墳
4	村東遺跡	9	王山古墳	14	日高遺跡	19	中大門遺跡
5	山王廃寺跡	10	鳥羽遺跡	15	五反田遺跡	20	下新田遺跡

第1図 周辺道路の位置図

第2章 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の立地

本遺跡周辺を地形的、地理的に概観すると、本遺跡地は前橋市の西部及び南部を北西から南東に広がる前橋台地のほぼ中央、利根川右岸に位置し標高98.4mの平坦な土地である。前橋台地は周知の通り、火山泥流堆積物とそれを被覆する水成ローム層から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の扇状地へと続いている。現在利根川は前橋市の西部を流れているが、かつては広瀬川低地帯を流れていたと考えられており、利根川左岸と右岸の前橋台地は、地質的には同質と考えられる。前橋台地の地質を概略すると、上部から表土水成ローム層、前橋泥流堆積物層、更にその下に前橋砂礫層が続いている。村前遺跡周辺の地層を見ても各層の堆積に差はあるものの、ほぼ同様な地層である。前橋泥流層はその堆積年代をC14方法で測定してみると13140年前と推定され、また同層の花粉分析によれば、当時は、現在の標高1000～1500mの地域に広がる落葉広葉樹林帯の森林構成に類似した寒冷な気候であったと推定される。⁽¹⁾

註1 前橋市史 第1巻 地形・地質

2. 歴史的環境

当遺跡周辺の歴史的環境を見ると、前述の地形的地質的条件から先土器時代から繩文時代にかけては人間が生活するのには適さなかったと思われる。弥生時代については後閑町六供町下川渓地区から土器の出土例がみられ、高崎市の日高遺跡をはじめとして、浅間C軽石下の弥生水田址⁽²⁾が各地で検出されている。古墳時代にはいると、總社二子山、愛宕山、宝塔山、蛇穴山總社古墳群があり、さらに山王庵寺、上野国分寺、國分尼寺と上野国の中心と思われる遺跡がこの地域に集中している。⁽³⁾

上野国府推定地（元總社町）の南側に広がる前橋・高崎台地の水田跡は、条里制の規定による地域と考えられており、本遺跡から検出された水田址もこれに含めて考えなければならないであろう。⁽⁴⁾

註

- (1) 前橋市史 第1巻 地形地質
- (2) 弥生時代の水田址大八木遺跡（1979）・正觀寺遺跡群（1979～1980）、日高遺跡I、II、III（1979～1981）、小八木遺跡（1979～1980）（高崎市教育委員会）
- (3) 古墳時代の水田址口高遺跡（1982）群馬県埋蔵文化財調査事業団
熊野堂遺跡（1984）群馬県教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査事業団
芦田貝戸遺跡（1979～1980）、小八木遺跡（1979）、正觀寺遺跡（1979～1980）、御布呂遺跡（1980）（高崎市教育委員会）
- (4) 関東地方の豪華令布「二友国五郎による」歴史が作った景観

第3章 調査の方法

確認調査：開発予定地の東西に確認トレンチ（筋掘り）を幅1mで1条設定した。次にバックホウで確認面まで掘削を行い、遺構の検出に努めた。また地層の観察・記録を行い遺構の有無について検討した。記録資料として写真撮影と測量も併せて実施した。その結果平安時代（B軽石下）の水田址（畦畔2ヶ所）⁽¹⁾なお同時に深掘りの地層から判断すると古墳時代（C軽石下）の水田址が存在する可能性が考えられた。

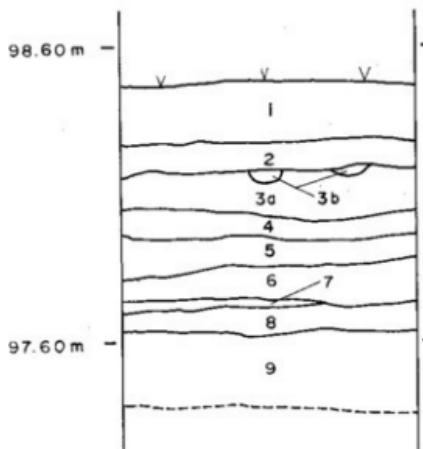
本調査：水田址の本調査は畦畔、畝状遺構の検出に重点を置き、調査は（26×45）1170m²について実施することにし、作業はまず表土（耕作土）を機械掘削により堆土し、B軽石（1108年）上面から人力により畦畔の検出に努めた。

遺構実測は、平面図、セクション図、エレベーション図とともにS=1:20の縮尺で行った。公共座標G-5グリットX=40, 600, Y=-69, 820、G-10グリットX=40, 600, Y=-69, 840の2点を基準とし、北西隅をA-0グリットとした。水準点は98.50mを設定した。

註

- (1) 付図1 E-0グリットからF-12グリット内に設置
(2) B-8～C-12, E-7～E-12

第4章 基本土層



第2図 基本土層断面図 1/20

1. 灰褐色土層 現水田面耕作土。
2. 褐色細砂層 鉄分凝集層。
- 3 a. 灰色砂層 浅間火山噴火(1108年)時の軽石層(B軽石純層)。
- 3 b. あざき色細砂層 浅間火山噴火(1108年)時の火山灰層(Bアッシュ)
4. 灰色粘土層 B軽石下水田跡(平安時代耕作土)。
5. 褐色細砂層 鉄分凝集層。
6. 灰褐色細砂層 棚名ニツ岳火山噴火時火山灰(F A)少々混入。
7. 黄褐色細砂層 棚名ニツ岳火山噴火時火山灰(F A)純層
8. 黒色細砂層 浅間火山噴火(4世紀頃)による軽石層(C軽石層)。
9. 黒色粘土層 粘性非常に強い。

第5章 検出遺構

(1) 溝状遺構

中央部にY字状の溝1条が検出された。位置はA-7グリットからG-7グリット、南北方向(N-2'-E)を示す。C-7-G-7グリットでは上幅64cm、下幅25cm、A-7-C-7グリットでは西側の溝が上幅36cm、下幅14cm、東側の溝では上幅35cm、下幅17cmを測定した。この溝の土層断面(SP-GG', SP-LL', SP-QQ')が示すように、浅間山のB軽石降下後に構築されたものである。(付図1)

(2) 井戸状遺構

C-2グリット内に確認面で口径86cm、深さ140.5cm、平面は円形、断面は円筒状の井戸状遺構が検出された。時期は不明。

(3) 水田址の形状及び規模

本調査区で検出された畦畔は5本である。他にSJ-2、SJ-4を西方に延長したところに東西方向の畦畔が見られ、2、4ライン付近に南北方向の畦畔の痕跡がみられた。検出された水田址の水田面での最高標高が98.10m、最低標高が97.89mで比高差は12cmが計測された。(付図1・2)

畦畔計測表

(付表1)

畦 畠 №	長さ(m)	幅(cm)		方 向	比 高 差(cm)			備 考
		上	下		北側	南側	東側	
SJ-1	7.6			N-1'-E			3.5	東側は水田、西側は畝状遺構
SJ-2	17.6	22.4	55.3	E-9'-S	4	5.5		東西畦畔
SJ-3	11.0			N-5'-E			4.5	東側は水田、西側は畝状遺構
SJ-4	17.4	17.9	53.1	E-6'-S	4	5		東西畦畔
SJ-5	7.6			N-4'-E			4.5	東側は水田、西側は畝状遺構

水田面積 SL-1 146.83m²

SL-2 186.32m²

SL-3 121.87m²

なお、畝状遺構の中に検出されたSJ-2とSJ-4を西方に延長した畦畔の痕跡部分の面積は、257.2m²であった。SJ-1・3・5は南北方向の畦畔であり、座標北より1~5'変化している。一方SJ-2・4は東西方向の畦畔であり、東西の軸より南に6~9'の方向で検出された。

水口遺構は、SJ—4の西側SJ—3・5の接点に検出された。水口の位置と水田面の比高差から用水の流れの方向はSL—2からSL—3に灌漑されていたと考えられる。

(EP-II'、EP-JJ')

土層断面図(第3・4図)に示したように北壁で48~60cm、東壁で40~55cmが表土から水田面までの深さである。一区割の面積の確認できる水田はないが、畝状遺構地域に残る水田の畦畔跡と思われる所の面積からすると250m²前後が当遺跡での一区割の面積と考えられる。日高、大八木、小八木、菊池、中大門、箱田、箱田境、五反田遺跡等から本遺跡地域も条里に規定される地域と考えられるが、当遺跡だけではそれを確定する材料に乏しい。

(4) 畝状遺構(付図2)

調査区の西側(A—7グリットからG—7グリットを結ぶ)に畝状遺構が検出された。構造としては頂上部中心から中心までの幅が64~93cmで、平均74.3cmであった。深さは1.0~6.5cm、平均2.5cm(第5図)に示したように浅い溝状を呈す。下端(谷部分)は東端で途切れていた。2ライン(A—2とG—2を結ぶ線上)付近で僅か南向きを変えているが、ほぼ平行で断面が波状を呈する畝状遺構がみられる。(A—1~7・B—1~7・C—1~7・D—1~7・E—0~7・F—0~7・G—0~7)グリットから検出された畝状遺構の面積は約720.27m²である。この畝状遺構の谷部分から水田への排水施設は検出されなかった。

①B軽石下の水田耕作土とB軽石の混土層からなっている。

②畝の方向は水田の畦畔と同一方向である。(付図2)

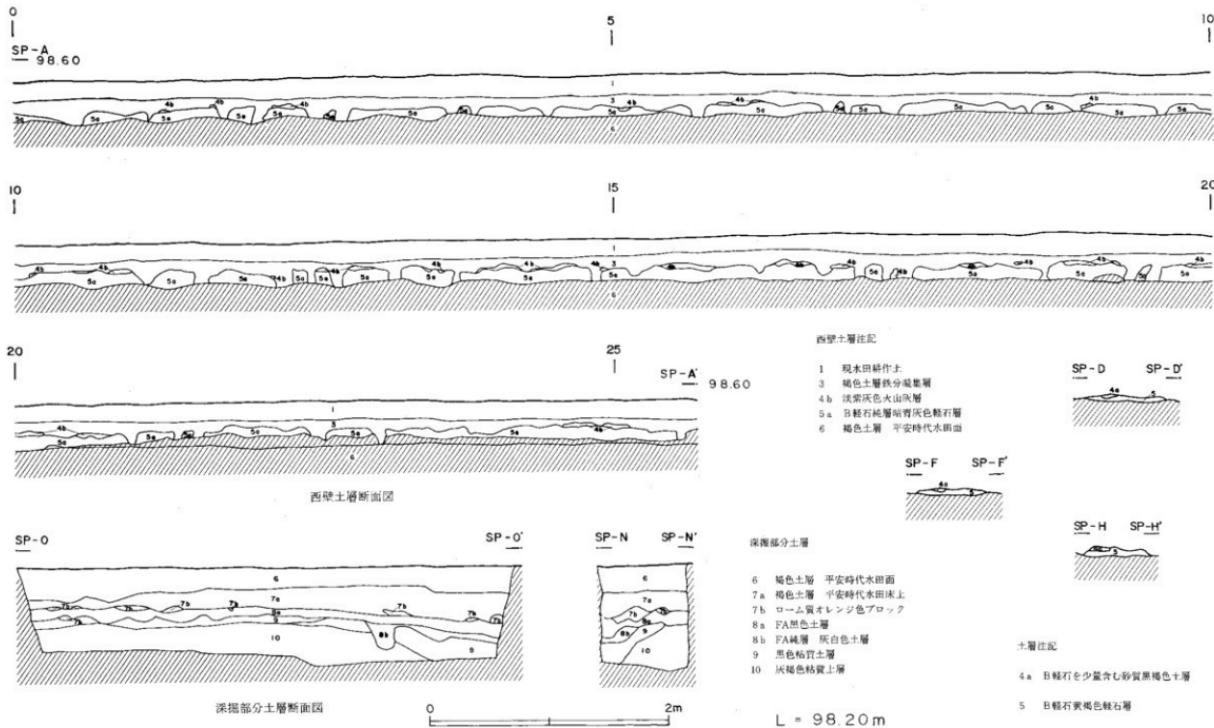
③畝状遺構の山の部分に今回確認された、SJ—2、SJ—4の延長線上に畦畔と同様の高まりが確認された。(図版No.6、No.7、No.10)

④現在使用されている水田区画と繋がる線上に畦畔の痕跡が見られる事。(図版No.1、No.2)

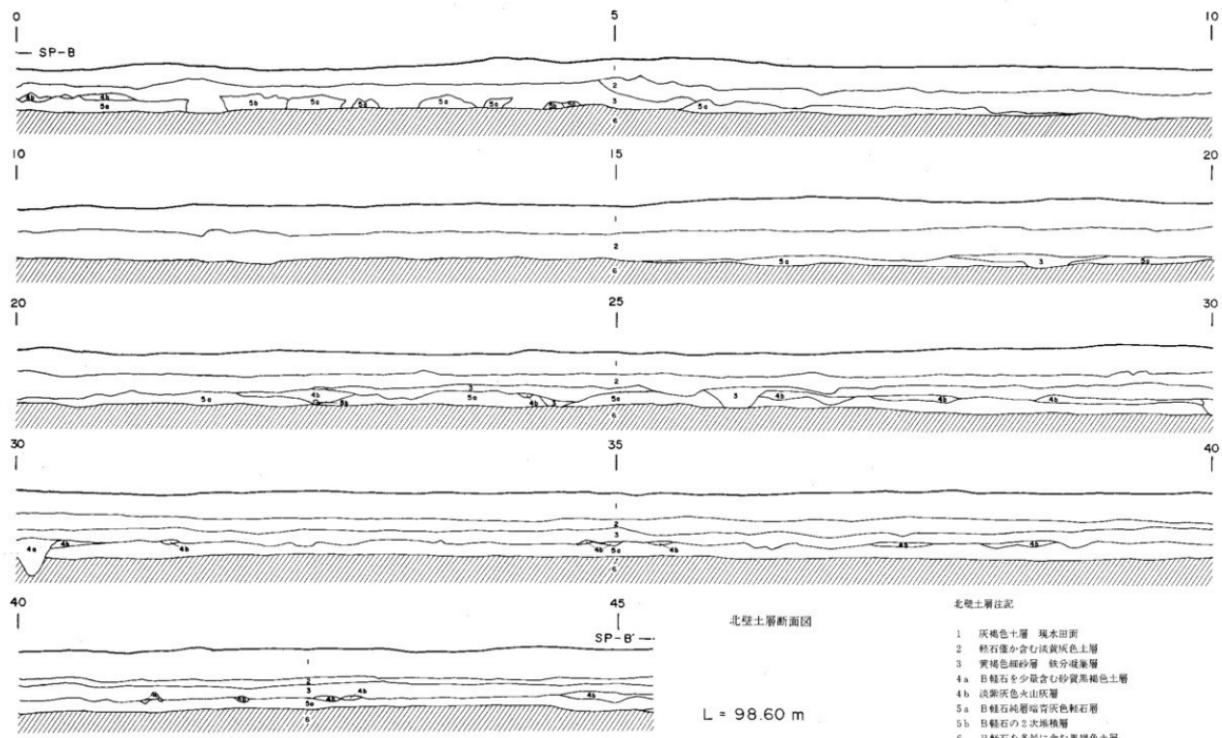
⑤西壁の土層からB軽石が途切れ途切れに確認される事。(第2図)

⑥粘性の強い灰褐色土の土壤である。

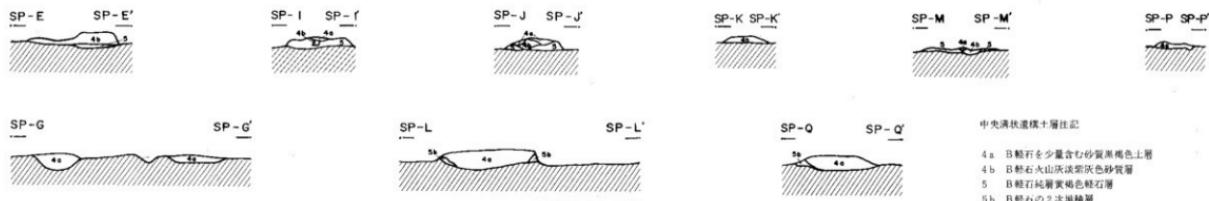
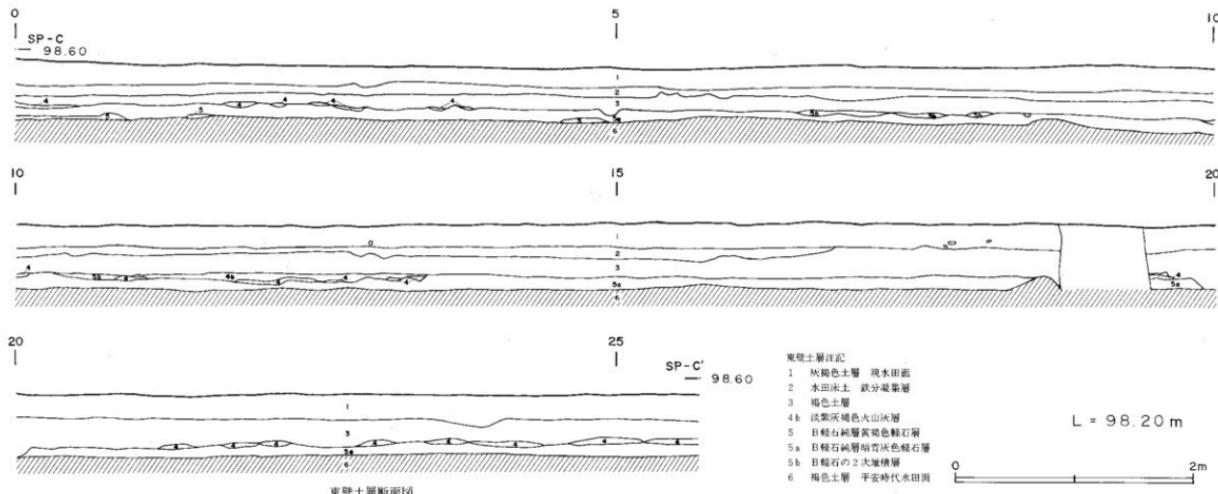
上記の事から、この畝状遺構の部分も元は水田として使用されていたが、B軽石の降下時点では水田としてではなく、畠として使用されていたことが考えられる。



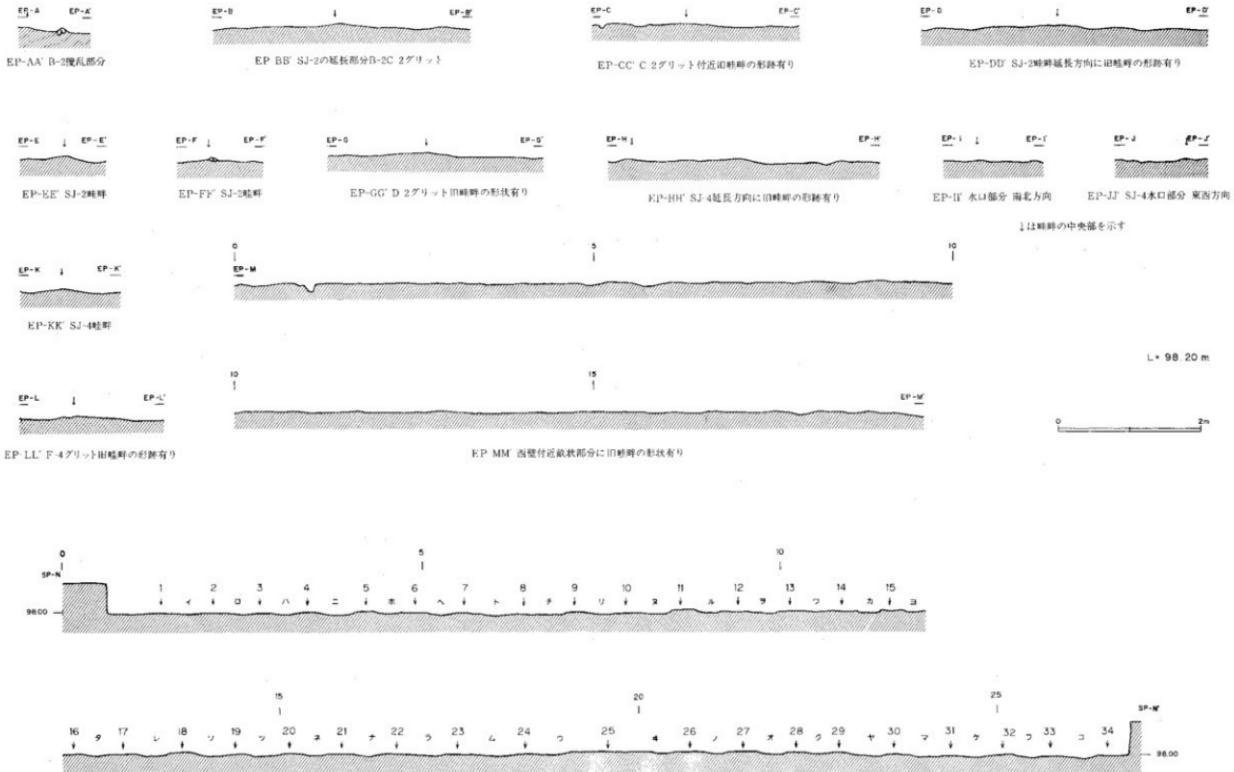
第31図 西楚土層断面図



第4図 北壁土層断面図



第5図 東壁土層断面図・中央溝状造構土層断面図



第6図 エレベーション図

畝状遺構エレベーション計測表

付表2

畝番号	長さ	谷番号	深さ	畝番号	長さ	谷番号	深さ	畝番号	長さ	谷番号	深さ
1~2	73cm	イ	1.5cm	12~13	73cm	ヲ	2.0cm	23~24	93cm	ム	2.0cm
2~3	65	ロ	2.0	13~14	73	ワ	2.5	24~25	115	ウ	2.5
3~4	66	ハ	1.5	14~15	67	カ	3.5	25~26	117	ヰ	1.0
4~5	82	ニ	2.5	15~16	61	ヨ	3.0	26~27	74	ノ	1.0
5~6	68	ホ	2.0	16~17	67	タ	1.5	27~28	74	オ	2.5
6~7	68	ヘ	3.5	17~18	82	レ	2.5	28~29	75	ク	2.0
7~8	82	ト	2.5	18~19	74	ソ	3.5	29~30	76	ヤ	2.0
8~9	70	チ	2.0	19~20	75	ツ	3.5	30~31	79	マ	1.5
9~10	72	リ	1.5	20~21	73	ネ	2.0	31~32	72	ケ	2.5
10~11	80	ヌ	6.5	21~22	76	ナ	1.5	32~33	68	フ	3.5
11~12	80	ル	5.5	22~23	84	ラ	1.0	33~34	80	コ	3.5

第6章 まとめ

近年群馬県下では、未曽有の地域開発が進行している。これに伴って遺跡の発掘調査もまた盛んに行われており、多くの新しい発見が相次いでいる。埋没田畠の調査例は100件を越えている。この調査報告のうち畠、煙及び畝状遺構、耕作状遺構と表記されたものが22件報告されている。⁽¹⁾これらの埋没田畠の多くは火山灰・軽石・火砕流・火山性泥流に覆われているのが特徴である。このような火山活動の噴出物による埋没遺跡は生活地表面をそのまま保存すること、同一時間面の把握を也可能にすること等が特徴付けられる。第5章で述べてきたように当遺跡地で検出された畝状遺構は浅間のB軽石の降下時点で西側の微高地部分は畠地として利用していることが確認された。(第2図)

諸橋織次の大漢和辞典では畠と畠は同字

畠：はた、はたけ 水田の対・草を焼いて開墾した陸田 火・田の義

畠：はた、はたけ 白と田の合字 白は水なく乾いているの意で乾田の義とする 畑に同じ

黒田口出男氏の研究によれば、⁽²⁾

第1、平安時代には「平安遺文索引編」によれば畠のみである。

最近5年間の畠・畠跡発掘事例

付表3

1	女 堀 遺 跡	前橋市今井町、荒口町	56. 6. 1 ~ 57. 3. 25	女堀とB軽石降下後の畠跡
2	下 佐 野 I 遺 跡	高崎市下佐野町	57. 3. 1 ~ 57. 3. 25	畠跡
3	東 下 井 出 遺 跡	群馬郡群馬町	56. 4. 1 ~ 56. 8. 31	C軽石埋没の畠
4	二 本 松 遺 跡	前橋市飯上井町	57. 5. 4 ~ 57. 9. 4	女堀・平安時代の畠跡
5	荒 磨 上 ノ 坊 遺 跡	前橋市二ノ宮町	57. 7. 1 ~ 58. 3. 25	奈良・平安時代の畠跡
6	菊 池 遺 跡 群 III	高崎市我峯町当見貝戸	57. 6. 21 ~ 57. 9. 14	平安時代の畠跡
7	中 村 遺 跡	渋川市中村	57. 4. 12 ~ 58. 3. 31 58. 4. 11 ~ 59. 3. 31	天明3年浅間泥流堆下の畠跡
8	熊野堂遺跡第I地区 東下井出遺跡	群馬郡群馬町東下井出番場熊野堂	57. 9. 8 ~ 57. 10. 31	古墳時代の畠跡
9	宮 後 遺 跡	前橋市二宮宮後	58. 4. 5 ~ 58. 4. 13	平安時代の帆状遺構
10	中 大 門 遺 跡	前橋市六供町	58. 9. 28 ~ 58. 11. 5	平安時代の帆状遺構
11	中 筋 遺 跡 群	渋川市中筋	59. 1. 10 ~ 59. 1. 30	古墳時代の畠等
12	甘 楽 条 里 遺 跡	甘楽郡甘楽町人字造石字上町字神田	58. 5. 9 ~ 58. 8. 31	江戸時代浅間A軽石下畠跡
13	桜 ケ 丘 遺 跡	前橋市続社町桜ヶ丘	59. 6. 3 ~ 59. 7. 12	奈良平安時代帆状遺構
14	黒 井 峯 遺 跡	北群馬郡子持村大字中郷		畠を発掘
15	押 手 遺 跡	北群馬郡子持村大字北牧		FP・古墳時代畠跡
16	甘 楽 条 里 遺 跡	甘楽郡甘楽町大字福島	58. 11. ~ 59. 10.	江戸時代畠跡
17	五日牛清水田中田遺跡	佐波郡赤堀村大字五日牛	58. 8. 1 ~ 60. 3. 1	古墳時代畠(4面)
18	甘 楽 条 里 遺 跡	甘楽郡甘楽町	58. 11. ~ 59. 3. 59. 7. ~ 59. 10.	浅間A軽石下畠跡
19	新保田中村前遺跡	高崎市新保田中字村前	60. 9. ~ 61. 3. 31	中近世畠跡
20	渡 志 江 今 宮	伊勢崎市渡志江今宵・神田	60. 6. 1 ~ 60. 9. 30	畠
21	西 紙 遺 跡	北群馬郡子持村中郷字天神島	61. 1. 15 ~ 61. 3. 31	古墳時代の畠
22	黒 井 峯 遺 跡	北群馬郡子持村北牧字黒井峯	60. 12. 2 ~ 61. 3. 31	古墳時代の畠

第2. 鎌倉時代になると「畠」と区別される「畠」(焼畠を指し示す)が資料上現れてくる。
第3. 近世のごく初期の検地帳類では、畠地はすべて「畠」と記されているが、慶長・元和年間になると同一検地帳でも「畠」と「畠」の両字が混在するようになり、そしてほぼ寛永期以降になると「畠」の字で統一されるようになる。

以上の事から黒田氏は、中世における「畠」と「畠」では、使用目的が異なるとしている。「畠」は屋敷・境内に近接し田地と並列して位置づけられており、それに対して「畠」については、①伐畠ないし畠に伐ると表現される場合に限られ、②そこには、五穀が栽培され、木を伐採した跡を焼き払ってつくる焼畠である。

上記の事から「畠」と「畠」の区別は、古墳時代の遺跡(群馬県北群馬郡子持村黒井峯遺跡)の畠跡では、柴垣の内側に小区画の畠が検出され、その外側に水田や畝状遺構が検出されている。

黒田氏の研究によれば(畠、畠)文字上の区別は古墳時代には考えられないとしているが、黒井峯遺跡の例や当遺跡の場合には使用目的によって区別があったものと思われる。

⁽³⁾ 田中義昭氏の研究によれば、初期農耕民が畠で栽培したものには、

穀類 ムギ、ヒエ、アワ、キビ、ソバ、モロコシ

豆類 アズキ、ダイズ、ササゲ、リョクトウ、エンドウ、ソラマメ

その他の栽培植物としては、マクワクリ、ヒヨウタン、カボチャ、スイカ、モモ等があげられており、初期農耕民が食用に摂取した植物は175種に及ぶとしている。

前橋台地は山地から平地に地形が変化する位置に所在し、中小河川と湧水に恵まへ稲作の好適地であったと思われる。よってこの地に古代の遺跡が広く濃厚に分布していることもうなずける訳であります。しかも浅間山と榛名山の噴火による火山灰と降下軽石の堆積により古代の生活史がそのまま埋没し良好な状態で保存されてきたことは古代の生活文化・生産・経済を知る上で恰好の資料となっております。当遺跡地の調査面積は小さいがこのような意味で古代経済の中心産業である稲作の水田址調査である。

本遺跡の調査としては、乾燥期であり水に悩まされることもなく調査を終了することが出来たのは、関係者の御協力・御支援の賜と考えております。記して感謝の意を表したいと思ひます。

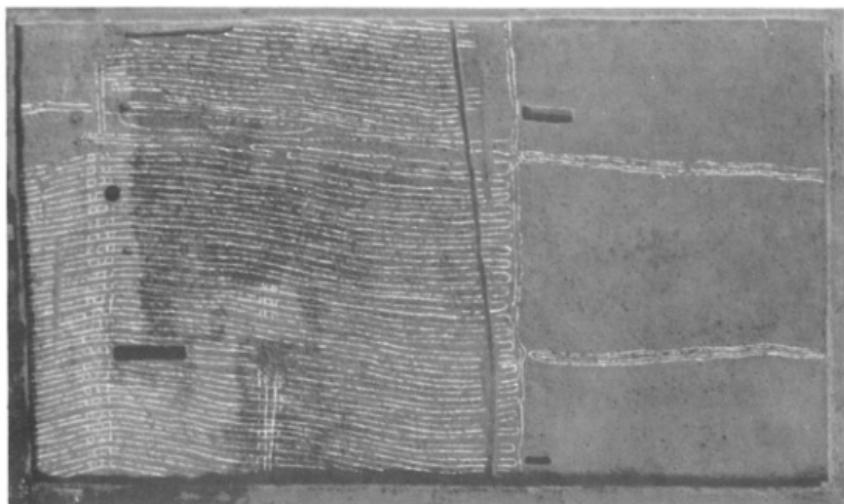
註

(1) 群馬県埋蔵文化財調査事業団、年報1~5による。

(2) 日本中世開発史の研究 黒田日出男 桜倉書房

(3) 岩波講座 日本考古学第3巻 生産と流通 岩波書店(第3章 弥生時代以降の食糧生産)

図版 1



No. 1



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5

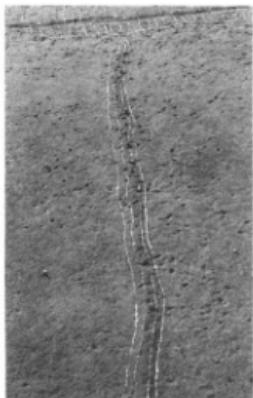
図版2



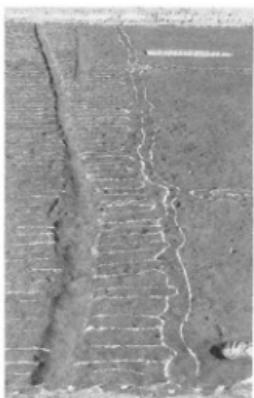
No. 6



No. 7



No. 8



No. 9



No. 10



No. 11



No. 12

村前遺跡

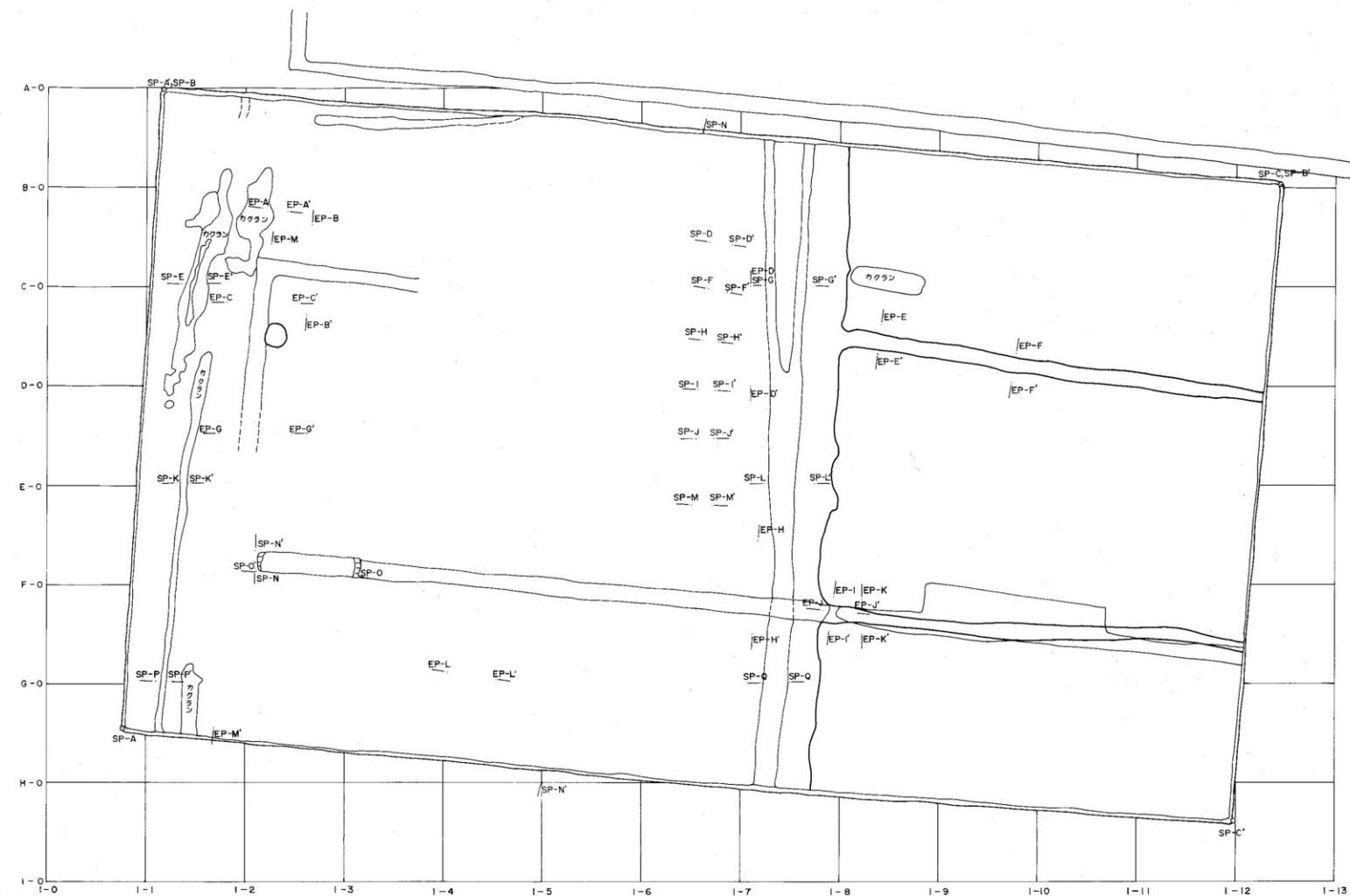
昭和62年11月20日 印刷

昭和62年11月25日 発行

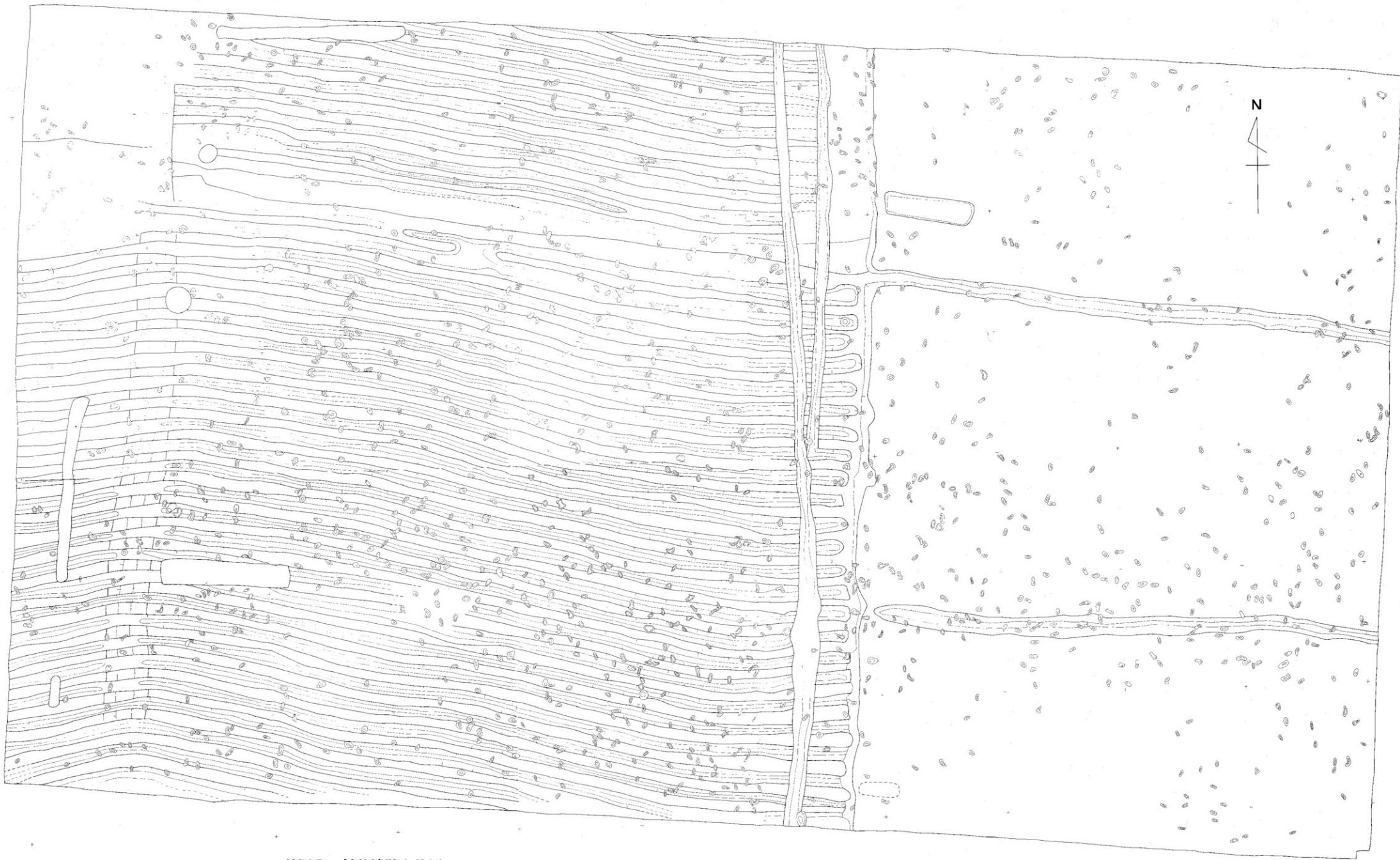
編集 スナガ環境測設㈱

発行 前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

印刷 朝日印刷工業株式会社



付図1 村前遺跡全体図



付図2 村前遺跡全体図